

# 上海レポート

令和4年7月号

Vol. 23



公益財団法人 大阪産業局上海代表処 (大阪府上海事務所)

中国上海市延安西路 2201 上海国際貿易中心 408室 200336 Email osaka@ibo-sh.com.cn  
TEL 86-21-6270-1901 FAX 86-21-6270-1351 http://osaka-sh.com.cn

20220704 号	オンライン授業がもたらす変化	秘書 孫芸
20220711 号	スポーツジムの再開	副所長 土佐憲弘
20220718 号	江蘇省塩城市の新エネルギー産業	所長 南浦秀史
20220725 号	若者の働き方から覗き見る社会動態	所長助理 徐潔

## オンライン授業がもたらす変化

2月に新学期が始まって1カ月も経たないうちに、コロナウイルスによって自宅学習や在宅勤務が新しい常識になりました。オンライン授業は、時間と場所の問題を解決する一方で、教師、保護者、生徒自身にとって、決して小さな挑戦ではありません。

オンライン授業は教師たちのIT能力が試されます。例えば、配布されたプリントのダウンロードができなかったり、音声聞き取りづらかったりといった状況が度々発生します。画面が急に暗くなり見えなくなるといった事もよくあります。このように教師たちのIT能力によって授業の質が大きく異なることがわかりました。半学期使いこなしの結果、教師たちがオンライン授業のスキルを習得したことで、大きな進化を遂げることができました。その反面、教師は生徒が理解しているかどうかの状況把握が難しく、リアルタイムで質問やコミュニケーションをとることができません。また、生徒の授業中の状況も監督できません。

生徒にとって、オンライン授業は彼らを映像文化の世界に引きずり込むためのものです。普段は制限をかけられて自由に見ることができませんが、やがて、タブレットやスマホが最も身近な学習・娯楽ツールとなり、この時こそ、正々堂々と使えます。豊富で多様なビデオ講座にアクセスできるようになったことは否定できませんが、その悪影響も軽視できません。10分勉強して、2時間TikTokを見る生徒はたくさんいます。自律性が弱い、集中力が低い小中学生は、デジタル機器の誘惑や干渉の影響を強く受けます。一日の食事、睡眠を除く、残り時間の3分の1以上、子どもたちはスクリーンを見つめていました。子供向けのオンライン授業とはいえ、保護者の課題はさらに大きいです。まず、保護者は専用アプリの操作を習熟しなければなりません。また、小中学生の保護者にとって、ある程度の宿題の指導も必要です。在宅勤務中の親たちは自分の仕事をこなすだけでなく、子どもの学習を指導・監督し、折に触れて発生するネット上の問題を解決しなければなりません。これは非常にストレスの多いことです。利点としては子供の学習状況を把握できるし、親子のふれあいの時間を増やし、コミュニケーションを図ることができます。

生徒が自発的で、親の適切な指導があれば、オンライン授業は良い学習成果を上げることができるかもしれません。しかし、小中学生を対象としたオンライン授業では、多くの問題点も明らかになり、人や家庭によってさまざまな試練が待ち受けています。



---

## スポーツジムの再開

---

上海市の都市封鎖が6月1日に解除されてから1ヵ月以上経ち街の賑わいが回復してきました。6月29日には飲食店での店内飲食が解禁され、7月1日には屋内の文化・観光施設やスポーツ施設の営業が再開されました。

当事務所付近にあるスポーツジムも軒並み営業を再開しましたので、週末を利用して3店舗ほど見学に行ってきました。どの施設も都市封鎖により4月から3ヶ月続いた閉鎖の直後であったにもかかわらず、トレーニングマシンの順番待ちができていたほど混雑しており、自宅隔離で鈍った身体を熱心に絞っている光景を見ることができました。

日本においても緊急事態宣言によりスポーツジムが一時閉鎖になったことがありましたが、閉鎖期間中に退会する利用客が多く、再開しても客足が戻るには少し時間がかかることをジム経営者から伺ったことがありますが、再開直後の盛況ぶりに中国・上海におけるスポーツへの熱心さを垣間見ることができました。

また、今回の施設見学中にジム職員から話を伺ったところ、上海市のスポーツジムは月極ではなく年間で利用契約をすることが多いようで、契約期間中にスポーツジムを使いたいのにも関わらずに十分な気持ちで施設営業再開と同時に開放しているようでもありました。

私自身も上海に来てから運動らしい運動をしていませんでしたので、入会を決めたスポーツジムで隔離中の運動不足を解消したいと思います。



---

## 江蘇省塩城市の新エネルギー産業

---

在上海日本総領事館主催のイベントで、江蘇省塩城市を訪問しました。

塩城市は、江蘇省最大の市で、その面積は17000平方キロメートル(大阪府の約8.9倍)、人口821万人、江蘇省では2番目に人口の多い市です。海岸線の長さは582キロ、タンチョウ鶴の越冬地として有名ですが、海に面した干潟が中国の黄海-渤海湾沿岸の渡り鳥保護区群として、中国54番目の世界自然遺産に登録されています。

塩城市では、そのような自然環境を活かした新エネルギーの取り組みが始まっています。市内には、ソーラーパネルや風力発電装置メーカーの工場があり、そこで生産されたものは塩城市内の港から世界各国へ輸出されたり、国内各地に送られたりしていますが、同時に市内のエネルギー需要も満たしています。現在、洋上風力発電プロジェクトは12件が完成、建設中のものは3件あり、塩城市の電力使用量の半分近くに相当する毎年約173億キロワット時のクリーンな電力を供給しているそうです。

また、中国では、発電した再生可能エネルギーの20%を貯蔵する目標があるとのことで、塩城市では、それを水素に代えて再利用するプロジェクトが動き始めています。水素のエネルギー利用に対するアプローチは様々あると思いますが、現在

すでに供用されている再生可能エネルギー100%からのアプローチは新鮮でした。市内にある電気自動車メーカーと協力して、水素ステーションの設置や燃料電池の生産も始まっています。

大阪府は江蘇省と1980年に友好交流の覚書を締結し、友好交流団の相互派遣や経済、観光、医療、青少年といった分野での交流に取り組んでいます。人類の課題である地球温暖化防止に向けた取り組みにおいても相互に協力し交流を深めていくことができるとうれしく思います。



---

## 若者の働き方から覗き見る社会動態

---

ある日、外国人の友人から「普段の勤務時間帯なのに、どうしてこんなに沢山の若者が外にいるの？ 仕事はしてないの？」と聞かれました。「あ、そう言われてみれば、そうだ」とこの光景が気になるようになりました。

社会の中で起きる出来事は、価値観や活動スタイルの変化が影響しています。ここに「仕事の状態・環境及び生活状態・モチベーションにおける比較」というタイトルの、ひとつの分析があります。この分析はすべてが当てはまるというわけではありませんが、「定職者：フリーランス」という別々の働き方の傾向を示しています。それぞれの特徴のある働き方と言えば、例えば、「他人の為に働く：自分の為に働く」、「勤務時間は9時～17時：時間は自由だが24時間待機」、「仕事とプライベートを明確に分けられる：仕事とプライベートが混同する」、「リスクを取らず、ルールを守る：他人と異なる選択をし、その結果をすべて受け入れる覚悟」などなど。

2020年の中国のあるレポートによると、30歳未満の中国の若者は、収入を除く、理想の仕事として、やりがいを追求しながらも自由を得られることが必要だと答えています。かつて、フリーランスは、執筆、写真、美術、会計など、専門的な知識を必要とする職業に多く集中していましたが、近年、中国では急速に進化するデジタル環境の中で、「ネットストア店主」と「フリーランスのカメラマン」が若者のなりたい職業のトップ2に入るなど、新しい職業が数多く生まれています。就職関係の専門家は、「デジタルシェアリングエコノミーは、プラットフォーム、サービス提供者、消費者の三者の関係を作り出し、旧来の雇用者と被雇用者の契約体系を変容させた。」と指摘しています。

親や祖父母の世代が安定した収入と福利厚生のある雇用制度（「鉄の井」と呼ばれる）に憧れたのとは対照的に、新しい世代は生計を立てるために正規の仕事や定職は必要ないという考えを受け入れています。自律性が高まり、新しいことに挑戦したり、より充実した仕事を求めたりすることに関心があるようです。

